

病家須知 一名病家くらしえ

卷四目錄

○婦人持病の心得^一 ○懷妊のあらえ^二
 ○胎の歌斜^三よりかゝる病のあら^四 ○胎教のあらま^五 ○はらりの心得^六
 ○一切のむくひけを治さる薬のあら^七 ○鎮帯を用るのあらえ^八 ○胎児の
 の妻貞烈^九、夫を諫て功を成^十むる圖^{十一} ○鎮帯の圖説^{十二} ○胎児の
 ふりたること^{十三}のあら^{十四} ○産小つるまの心得^{十五} ○子癩をさく心得^{十六}并
 圖^{十七} ○一切の病の心下小^{十八}こむのわざ^{十九}とあら^{二十} ○妊娠小便通せ^{二十一}
 時の心得^{二十二}并小圖^{二十三} ○臨産小便通せざるのあら^{二十四}并小圖^{二十五} ○産後
 小便通せざるを救^{二十六}と并小圖^{二十七} ○催生薬の心得^{二十八} ○臨産のあらえ^{二十九}
 ○難産小安小鉤を用て害あるのあら^{三十} ○妊婦くらしへべき肝要のあら^{三十一}
 ○産褥の害あるのあら^{三十二} ○産褥を製ること并小圖^{三十三} ○ふらり兒の心得^{三十四}
 并圖^{三十五} ○うほ子^{三十六}の聲をあげざるのを救ふ法并小圖^{三十七} ○産後の心得^{三十八}
 ○ちのけまひを救^{三十九}とあらえ^{四十}并小圖^{四十一} ○ちのけまひのあらる病因^{四十二}
 あるのあら^{四十三} ○同冷水を用る秘訣^{四十四} ○その病をさく心得^{四十五}并小圖^{四十六}
 ○その病あるを告知^{四十七} ○血のぐん小下^{四十八}を救^{四十九}とあらえ^{五十}并圖^{五十一} ○同水を用
 て治さるのあら^{五十二} ○同ちのけまひを兼るもの救^{五十三}とあらえ^{五十四}并圖^{五十五} ○さへ^{五十六}
 の婦人に寝る小あらし^{五十七}あら^{五十八}とあら^{五十九} ○胞衣下^{六十}さるのあら^{六十一} ○胞衣下^{六十二}
 を知^{六十三}とあら^{六十四}とあら^{六十五}とあら^{六十六}とあら^{六十七}とあら^{六十八}とあら^{六十九}とあら^{七十}とあら^{七十一}とあら^{七十二}とあら^{七十三}とあら^{七十四}とあら^{七十五}とあら^{七十六}とあら^{七十七}とあら^{七十八}とあら^{七十九}とあら^{八十}とあら^{八十一}とあら^{八十二}とあら^{八十三}とあら^{八十四}とあら^{八十五}とあら^{八十六}とあら^{八十七}とあら^{八十八}とあら^{八十九}とあら^{九十}とあら^{九十一}とあら^{九十二}とあら^{九十三}とあら^{九十四}とあら^{九十五}とあら^{九十六}とあら^{九十七}とあら^{九十八}とあら^{九十九}とあら^百とあら

ヤ 9
1098
4





病家須知卷之四

婦人持病の心得と説

凡婦人女子の宿病ジビヤウといふもの、起原オコリを性質ウマレウキニタラ柔順ニタラをらば、く
 猜疑ウタガヒふるく。人を怨世ウラミヨと尤カコナ心情ココロザマの偏僻ヒガミたるより發オコルものか、
 せとといふ小といふは、婦人フたる十ト八ハ九クを偏心ヒョウシン愚癡グチあるもの
 小く。このく小挂念モノオモヒマニルヒマ間斷マダマダなく。悒悶ウツマダシ病とあることを多オホけさるべ
 也。男子ヲより喜ヨロコビ怒イカリ哀カナシ樂タノシの情感ジヤウカント易ヤスクた、目メ前マヘのことの之コノを執シ
 く。遠識トホシある。婦女フナナの常態モナマヘある。いふ小才氣サイカキあるとも。男子ヲの
 思慮オモエ小ら。いふぐり及オヨブべさと自反アキラメく。一切サイの心畫クワダクゴト意匠オモヒスツシを、掃盡コロヨリハラヒステ
 く。詮センあること小思ミロを費カケむ。舅姑レウコトの已オシ小阻ツクも。夫フの吾ワレ小歎ウレキも。皆定モナマヘ

とる因縁インエンどと明ミめく。何ナニごととも介意コロニシヤクむ。中饋アサナフの事業ワザ墜棄オコタラぐ。慈ジ恤ヒを旨ヒと一切モノゾト遜順ナダラカ。失行シキヤクぶハかなく。漸シダシ小心コノコナナシヤカ裏寬ウラニヒヤカ平ヘイ小コあり。いイのハあるル艱困ナンギ小遭アツことありくも。とトをク苦クとかもふ心ココロも發オコラむ。鬱悒キムスボル、ヤマヒ為病イフと云イフことあるべらば。然シカレバ病苦ビヤウキの去イニルのニあらむ。憎ウラキもやハのニ愛疎アイシキも自親オノカシキく。後榮ウラスエサカエと期身マツミとありぬべし。故ユエ小婦フ人の攝養ヤウレヤウとハ外小託ホカ タムべキことトもハなく。たタバ心意ココロの收攝ウサマリとハ身體コトモナの怠慢オコタリと誠イマシメんことトあハと切要カンユウをヒ世小宿痾セビヤクモナとハさせルことトらあけキとハも。平素心意フチニ コ、ロの放遣ハレヤルヒマなく。或アルヒ疝癥シヤクキ小困迫クルレメらシいハのハされドも治ぬナホラと云イフ類ルイも且予シヤクヨの教ケイ小從レタヒて。灸藥キウクスリと託タシとせシむ。專婦モウダフチの四德ヨウトクといフ。和順貞固ワニヨク、ニシク、マシク、マシクとの道ミチと。己ミが持藥ヒヤクと存心ココロケ。婦德フチノトク婦言フチノコト婦

容婦功ヨウフクの四車ヨウシヤと導引ドウインと常ジョウ小思オモウく力行リキョウをハ。疏懶シュランの癖クセも自然シゼン小歇ヤミ鬱敗オホカク之意イもいつハの轉ウセく。氣血キケツの循環メダリよく。子藏チノミ病癥シヤク疝シヤクの類ルイも。大槩オホカクと鑿イシヤの療術レウジュツと待小マツ オホバ及びイユく治イユべきハあり。あハくハとハと初ハジメのあハひハと難堪ナンカンあるやうハとハとハも。決ケツくハ為得ナレエたハとハと小コあハらハど。必奮發カチヌク、ツトメ、ハゲキ試シロムべシ。こハ色婦人イロメノフメノヒト攝生ヤウレヤウの大本モトあり。懷妊クワイニシのこハ、ろえハとハとハく。凡天地アヒタの間マ小生シヤウあるもの、子コを産ウマざるハとあけハとハも。人小ヒトノコと難産ナンザンといフふことありく。之コレが為タメ小命イノチと隕オトスことトの多オホキいハのハあることトどや。禽獸トリノカモノと孕ハラムことありくも。自然シゼン小委マカセくハさらハ小枝意チノイと交マシことトなく。己ミの身ミの飛動アツカヒ小閑イトマあけハとハ。體カラダの運化コナレもよく。臨産サンノトキい

あゝあらんと沈思もあらねば。氣の抑鬱もあらず。故小産甚易し。
人もまゝ如此。懐妊の初より自然の條理小從く。我意を加こと
なく。臨産もあらんのかくあらんのと。同心費思ことなく。
唯人倫道小背ことあらずと攝養とせむ。數孕むるとも穩と産
て。其兒もまゝ強健あり。然と人小の之艱産多し。皆攝生修身あ
りく自爲孽小く。己心のら吾身を害ものありと知べし。自然の
條理小從といふも。いふも其心と和平小して懊惱とること
なく。欲を省慮と寡し。假令有身とも。居恒の動作裁縫蓄御の職
身の級小從く。毫も怠ことあらずべし。農婦のたゞ挿秧耘草を
どの前へ屈こととの之を廢し。貴人も朝夕小己が爲べき

業あらずとも。強て園中あざ閑歩然べし。舉止をありて。必く逸惰
なることあらず。或ち常小昔の聖賢君子の書あざ讀せし。聽こ
こと旨といたまふべし。茗燕十炷香線管の戲伎も。臨時てハ爲
たまふも可。耽く行も好し。のらば懐妊の中風小冒ん寒をや感
たまはん。障屏設置。衣衾襲小被まおらせし。たゞ氣の抑鬱こ
とのとあざば。腸胃の傳輸も自遲慢胸腹支痞たまふこと。聞こひ
こしく喧嚷。漫木黄芩地黄等の泥滯やとと藥物を安胎主劑と
謬執させる疾あざ小も。妊娠の保攝とく進まおらば。の類悉
妨害とあらぬことあり。豪商大賈もこも小準し。保養過宜の
失の自然小背ことあらず。産の害とあらずもの多。樵婦田姫

あどち。且夕の營爲小隙をけきハ。逸居べきやうもあく。副急た
る病ある小非ハ。藥を用る痛苦も知也。故小産前後の障害も少
素より貴賤貧福其常を異小。衣食坐臥小その別をさし非也
貴も人も賤もまゝ同ト人あり。體小何等の差別あるべき。然
ハさせる病もあさ小。何の保護の藥あらんや。惡阻ありとも。月
日を経るハ自然小止もの小く。強く鑿療を加る小も及也。況藥
の之を據て産の易んことを望も。大ある左計小非や。然んよ
至ハ飲食を節し。體の運化を第一の用意とし。身孕ありと知く
の後ち。男女の交を嚴制夫婦尊を同じて臥をあるべし。是自
然の道理あるハあり。この持戒ありけとハ。胎位ハ漸小軟斜小

あり。胸痞く咳嗽もあり。腰脚孿急く疼を知劇とさち起こと能
也。或ち痔疾脱肛さるもあり。小便通利ありくあり。腰脚浮腫
て苦悶もあり。腹痛下血もあり。産小臨ても胎兒の位置正ら
れハ。順小婉ること能也。難産と爲甚さハ命を斷ことある小い
たる也。胎毒もまゝ之の爲小熾小あり。生来多病ありく天闕を
稟し。胎毒もまゝ之の爲小熾小あり。生来多病ありく天闕を
るの憂ある也。不然ハ其兒蠢愚貪婪あり。不孝の子とあらんこ
とも必然あるべし。世間小難産をるものを見る小。十の八九は
其夫妻多慾あり。慎ありき人小かか。故小古昔も胎教とく。胎
内より子を教といふも至理あり。今其胎教の大旨を略し

こ小説ていへば。凡く懐妊しより。其母益身を慎寝小側位。
坐小邊を立小蹕を。邪味割の正あらぬもの食む。席の正から
ぬところ小坐を。目小邪色を視む。耳小滴聲を聽む。夜も必端坐
て聖賢の道を述たる書かどを讀しめ之を聽身を懦弱から
しめば。妄小喜を怒む。哀を憂む。高小陟を遠小奔む。何小くも正
あらぬこと毫も耳目小觸心志小發ことありといへ。況く
飲食男女の慾。戯劇遊侈の念をいふより起ことのあるべきか
の色ハ産前後の疾苦も知む。其生子も形容端正し。才徳の世
小過たる人とあるといふも。其母の舉動の正小感なく。形を成
神を發む。自然の道理を色ハあり。今の世小くも如此小能む

こも胎内の子ら必母の性質小類似ものあること常小忌以
身を責己を刻ハ。昔の胎教の一端ありとも修得らるべきこと
あらばや。さも色ハ懷妊の攝生も。まゝ天地自然の道小從修身
正心の外小あらぬこととよく識得べきことあり。

悪阻の意得を説

妊娠數月を歴く。飲食とも小吐逆し。容納のたぐ。諸藥効ある
ものあり。こを強て止むとさるる却害あり。一應藥を用て
治ことあくハ。必灸藥を託とせむ。自然小治を待べきあり。故い
こ小とるまハ。併病もあき悪阻も。藥せむし。必治ものあると。
誤く駄藥をどを用く。其自然小拗戾たる治術を受ことあまハ。

後必臍を噬の悔あることあるを懼べあり。懐妊し直小惡阻
とあるもあり。五六月小く發もあり。いづれも經脈和胎位定と
さるらねば治ざること。先記得るよし。然と雖寒熱往來あり
て咳嗽あども出漸小羸瘦ものも。それより一々勞瘵小あるこ
とあまハ。必緩者べらば。懐妊中惡阻小咳嗽を挾やめて勞瘵
小成て死ぬるものま、あり。或る孕中故ある。産後蓐勞とある
もの。こゝら惡阻を強て治さんと一々發するもあり。惣諸病
とも嘔氣甚く。一切の藥を容受あたさるもの小。伏龍肝一錢五
六分許を水小和。其水を澄清て。粉の交ぬやう小分。火小温生
薑の生汁二三滴を加う用を。大抵の嘔止ものあり。水のま

ま小用ることもあり。伏龍肝といふも。田家あま小く年久あり
たる竈心小通赤小焼たる土塊あり。そを極細末小く用藥
舖小もあるものあり。この水小く半盃を煎ト服るもよし。胃中
小汚穢ある。滯食小く嘔を發たるもの小。此等の藥を先ハ
効あり。こゝらま豫知へ。

鎮帯を用る心得をこく

懐妊小古昔よりの習小く鎮帯を用ること。其利害の論區々
とども。元來懐妊々天然のものあまハ。鎮帯小く胸下を纏縛こ
こハ。可あらぬこと小く。緊紮とさる。胎の生育の妨害小為て。難
産の原と爲ことあり。妊娠中小嘔逆浮腫を患るも。この鎮

帶オビの害ガイ小由コユ者モノか不レ。故ユ小近キン來ライ帶サン下クワ鑿コレ之ヲと禁キンむること其理ソノリ至シ
 極ゴクせり。然シカるあまレとむ往ムカレ古コよりノ俗習ナラハシ小く。孕婦ハラミヲシテ五月イハ小いこと
 着キテ帶タイを祝イハこと。貴賤キセン槩ニて一ニあり。千餘年チヨウネンの昔ムカシよりノくノ如ゴトの
 弊シいマさら止マふたさラ庸人オウジンの常ツネあるニハ。強シヒく鎮帶チンタイを脱トクしむと
 狐疑ウツカヒを生オコシ甚シ小至シてラ。紮定シメテさレハ兒肥コガフトリ太カシく産艱ウツカシあるニいふ。層アサ
 說ハカナル妄言ワウゴンを信シンとく。空イカラ小之コレハ爲タメ小識神コハカミを勞ラウむるノ害ガイあり。故ユ小た
 だ布ヌの粗薄クソクもの單ヒトヘを用ユ。緩小腹ユルハラ上ウヘと掩纏オホヒマヒ。その端ヘを挾ハサて脱トクべ
 のらざるニまシぐレふて。縛シメ禁ムことあるニ可ヨシこと。かくレをシハ胎タイの倚マカ
 斜カサとも防フセ。その婦人メノコの意ココロも降オチあり。其說ソノセツの委ウキことニ。既スデ小坐婆イハハハ必カナラ
 研グサ小載ノヒたレ。此コノ小略コト一ニぬ。たシ嚴禁ハヒシクムべシことニ。房勞カクシムあり。四



形名婦義勇 諫其良人圖

産帯の事もの小をえたるを小右記源氏物語などやとらめをらん坐婆必研小もきで小いへる
 如く俗説の神功皇后三韓のむきたまふ時閑胎小當たまひし故小石を挿すまふ事おれ
 盤腸をらんといへり是を萬葉集の鎮懐石ともおきべ胎をいたひ鎮る證とをき
 べく帯の始といひひひたし説者其竹集小奉たる人い色ぬえとへおむをふいた
 大帯と云る連句を引て此帯をバのたと帯といひあうひ結肌ま
 小の齋肌の義をきとどのいへるものおきべ一種の
 漆結の各小あをのあきさやうの心とせ
 人の覺束おしも一の齋肌の
 名詮小とりて夾額を用さる
 世もありしふや此外中右記
 東鑑平家物語拾遺抄御産部
 類記など小も出ておかくと其夫
 てづら結へるよ小みえ又著帯を祝ともあるを思へといと
 古き世よりの習小の有けんし席士小も此事有と覺て羨便方保産心
 法及俗説辨小引處の婦人産帯記など小いへるかもむきもあらくと、のさま小異あらば
 ちうのあきさきもあるこのことくひろく南北小とさりておま移くさきくもさるこおのあら
 さるべしさて今本父小述たる帯のゆひやうと挿ておけるのこ小てを解やきくて
 大よりありおかもおのこことくしてゆるらふむをさんもまさあうらば
 ともおくも帯をる人の心よ安うらんこと第一のことあらむ



五月より後々。夫妻同寢を戒こと尤切要あることさる既小言が
 ごとし。其他惣て身と屈曲て。くげいさ労働を爲ことハ可のら
 ば。多る胎を轉動て損あり。農婦小難産あるハ。妊娠月満まぐも
 否不耕作の營を廢む。挿秧耗稻をこの前へ屈む爲ことこの多
 もの小ありさきく。こさる小くも察をべし。月重く交接をるの
 體小害あることさる。この農婦の耕作の労働小も勝る。慾火を煽
 胎を壓迫こと。いのでう障とあらざるべき。まと世俗懷孕中ら
 脚を伸して臥ことと禁ト。體を屈め兩脚を縮て寢しむ。こと尤
 害あることさる。若如此とをきべ。子藏絞束らさ。下より諸藏を壓
 て。心下苦憑快寐たたく。孕中患あるのさあらむ。胎兒之を爲小

歌斜カタクリて難産ナシザンの原モトとある。必體カミタを屈カスルこととなく。兩足リヤウソクとも小適意コロキホト小伸ノビしと臥フスべし。尤モトモ一偏モトモ小臥カクらあし。時々トキトキ左右サウヤウへ轉臥テリヘリするをよし。胎少タイスウシ小くも斜スバヒ小あることあはれ。その倚カヨリたるるとの胸腹腰脚ムネハラコシヒ拘急ヒキツメて甚タガきと痛イタミを知蒼卒オホソ小起坐タチサあり。たさ小いたることあり。然シカど疾高ハヤカウレヤ手の蓐母トリモの乳鑿ニシヤの車熟コトナレたるものを乞コキく。按腹アンブして胎タイを正位キドコロ小復カテしむは。腰脚コシアヒの牽引ヒキツリを速小治スミヤカあり。俗家シヨウカ小くも手テを下オロシて縱容コウロウシカ小胎タイの傾側カタクリたるかより。按オレく正中シナカ小至シべ。隨分スイブン少スウシの偏カタクリ治ナホものあり。妊婦ニヤンニヤン自行オホキもよし。其時ソノトキ小く仰臥ウラカキて先胸サキムネと至小腹シタハラまソコく徐々ソコソコと心ココロを静シズメく按排オササスルべし。隻手カクテ小く力入チカラおたりと思オモハべ。両手リヤウテを層カタマて切按シカトオヒてよくく撫摩オササスべし。強按キヤクオヒても必カナラシを是コト小て

胎タイを損シムるといふこととある。其費意ソノコトウヤカヒハあるべし。蓐月リンゲツ近チカらば。殊致意オホキコトウヤカヒて毫スウシも偏斜スバヒカヒ小ならぬやう小をべきことあり。産小臨ウチカキて苦惱クネレヒの多少オホキ。皆胎ミナタイの正マサカと偏スバヒカヒある小由ユルことあり。故小懷孕コトウイニシの切緊カシユクとあることあり。まに臨月リンゲツ近チカらば。大便オウベンの燥結ヒケツせざるやう小在念コトウイニシべし。産小臨ウチカキて胎タイの出路デルミチを礙サセく。免身ウケムシのぬることとあり。あることあり。故小をこし小くも燥結ヒケツ日を經スルことあらば。速藥ハヤクシヤクを用ヨウキく宜ヨクかど小通利ワカレあるやう小をべし。ささ小もいふこととなく。懷孕コトウイニシる自然シゼンのものあるを是コトと孕ハラムたるる必カナラシ分マカ娩マカべし。小定サマヤリたること小く。難産ナシザンといふを絶タエてあるを理カあるを。皆保護ミナヨクサユの節フシあらざる小由ユルて。空小苦惱クネレヒのなきらば。遂小ハ母子ボシとも小命イノチ

を斷オヒス小至イタル。こは尤モツトモモク嘆イタルべきことあり。又ハラムナチ妊婦コノロウの留コノロウ心ベシべき。月ミナ足ミナて
晩期オモク近チカづけば。腹ハラ肚ウチ急キレ痛イタミ腰コシ股モ拘ヒキツ攣ツリ。小便ベシ頻シバシバ數ナリ。カ息イキミ切キリ小チカ促マシ。産マ戸ハ
も裂ハんカのと思オモフ不オモフどの苦クル惱レミあり。否サシハカ晚カ身レもカさレものぞと先マ記コト
べし。而シカと微オモシの陣レキリ痛ハレも失アハテ措テ。今イマや分ウレ免レんカの。其ソノ期キも來キタぬ小
自ミ心ココロを勞ラウら。己ミの意コノ識シを妄ミダリ小チカ悶オモレむるのさサらむ。舉ヤ家ウチ驚オドロキて。鑿イシヤと
迎ムカフる人ヒトを走ハシラせ。穩オモシ媪ババの來キタルの遲オソキを罵イカリ藥クサリよ白サユ湯ユよと躁オドロキ擾サカシの聲コエ嘩カシく。
そさらのため小チカもカまレ氣キ逆サカて。諸ハラ藏ワケを上部ウヘノカタ小チカ牽ヒキ引ツク。遂ツヒ小チカハ難ナン
産サンの原ヒトとチあるチあり。故ユエ小チカ孕ハラミ婦メナ第ダイ一コノの用コノ意ガケハ。陣レキリ痛ハレ促マシも。努イキ挿シ甚シ
くあるまで。堪カン忍ニンの感カミハカ旁ソバノ人ヒト小チカ告シラセことあるをよヨいとをべし。其ソノ
夫ウツ親オヤ及キ貴キ人キの婢ソバノ長カシラもこの用コノ心ココロをけしバ。産サン婦メナの爲タメ善ヨシらむ。假タテ

令ヘ洗ソシ娘メの未イマ詣キタ小チカ晚オモク。其ソノ兒コを收トクこと過オウ時ジキもよく包ツク裹ヒ寒カ風セ
小チカさへ胃イハ一ヒめむバ。決ケツく害ガイハカさレものあり。産サン婦メナの心ココロ氣キだ小
平ヘ小チカして。上ウヘ逆サカの患ウレヒあり。胞ハシ衣ゼも速スギ小チカ下オべきこともこより論ロン
を。假タテ令ヘ胞ハシ衣ゼの下シタること遷ヒヤド延ルも。必カナ患ウレヒべきこと小チカあらむ。こ
また胎コ兒イ免マレ身イテて。其ソノ用コノ廢オスハ必カナ下オ去ルべき。自然シゼンのこと小チカあり。日
數カズ經ス過スはそのま、子コ藏ゾウ中ノ小チカ腐クサ壞スて。終ツヒ小チカ出イるベシ不定オモクりた
るものあり。こらく初ハジメより産サン婦メナの意ココロの降オチて。胞ハシ衣ゼの下シタさる小
懊ウツ惱メクせぬやう小チカさること尤モツトモ切カン要エウあり。こは胞ハシ衣ゼ下シタらば痛カレ
痠ヒキを發ハシく。暴キコ死シをとの變ヘンハ決ケツくあることありと思オモフべし。故
小チカこのことも豫カキテ孕ハラミ婦メナ小チカ示イヒ諭カセべきことあり。猶オホ末スエの胞ハシ衣ゼの條テ小

於く辯析を看く知べし。

妊癩を救心得を説

此病は妊娠中の劇證小しく。吸呼促迫眼目上吊。口噤反張。人の省なく。その胸下堅結。心小衝逆勢甚しく苦澁あり。倏忽小發ものあるべ。鑿師を招小も多ハ副急ふたきものあり。故小之を救の法と豫て識得べきことあり。其法は妊婦を仰小卧し。て。さく其左旁小從く。婦の脚の方へ面を向く坐く。右の拳を以て。婦の左の乳の正下の肋端の不容といふ處を。力を極て抑按べし。但し心窩の方へあけく。按處ハ肋骨端腹部小く乳の直下と記べし。右拳小く力足むべ。左手を右の上へ添く力を合べし。

尤周身の力を手頭小在し。強按小非ハ制止ふた。あ不按もの。小腹小努力を入く。切と應手あるやう小をべし。掌をさく。小て抑力よりハ。腰を定て正と抑壓ふた。利ものあり。や、苦迫寛小あると知ハ。拳も從く縦て勢の旺衰小任緩急宜を得べし。心小毫も怠慢なく。た。其勢の靜あるとさハ。力を用ること。微せささハ。拳疲て勢旺とさ小抑定ふたけさハあり。月満く拳の胸下小入ふたきもの。四指頭を用く按もよし。容易の力小てハ中く壓鎮ふたきこと、思へし。決して按て胎を損んると疑慮ことあると。其患も必あることあり。あ不圖を參窮へし。こは不限と。一切の病の心下小衝迫こと劇もの。此術を施てよ

妊痛を救ふ圖



合掌
 雙手ゆゑ力足ざる
 こそかくしてカを
 合



四指頭を用て按
 掌のこのち

同症月満く拳の
 胸下小入のたき
 を四指頭を用て
 按のち



腰ふかといとて抑壓ん
 たゆ小掌を帯のあひと
 挾一こころ

世ヨ小謂イニカクケレヤクレン足痺衝心ルキの類。小兒キタフクの癩瘻ヒトシをど小もこの意ヨロシを用ユこを
を按オシて効カクを得トルとあり。前マヘの小兒コノコの條トコロ下小シモ記シたるをも。こ、小互ヒキ
檢アビて考カガフべし。

小便通ベンツクせざるトキの心得ココロとシく

懷妊クワイニン中小便通利ベンツクリありクなり。漸シダシク小閉塞フサガリく終ノヒ小も涓滴ヒトシツも通ツクせぬ
やう小あり苦クルシム邁マエことあり。如此カ、ル、レ、ヨウ症シヤウを尋常ヒト、ホリの小便通利ツクリの劑スシモを寸
効シニレを元のシ小あらむ。却カヘツて浮腫腹滿ムクミハラハリを増マし。飲ノミ啖クヒもあらば横卧ヨコヰ
もあらぬやう小なりク。假令タトヒ小便利ツクリても。身體カラダの疲憊ツカレ素モト小復ツク
がシく死シ小いたるあり。故ユエ小その前マヘあらば速療治ハヤラクザシせシ祓ハラフへシら
ぬ證シヨクあり。小を療治レウヂするル。藥クサのシ小く効シありシことあり。

高カクシヤ手テの産科サンクワを識得シヒユルことあり。そを小託シタく手術シユヰツを乞得ゴヒユて。疾小
便ベンの通ツありやう小をべし。そをシまシく小シいたらばとも。胎兒ハライノコ
漸ヤ、オ、キ大オホキ小をシべ。小便通利ツクリあるトキと小伯礪ヒカユルやう小あり。まシらシ尿
道閉塞ダクネトチヲセやう小慮オホエて。いつも通利爽快ツクリニヨロヨあらば困苦ナンギをシことあり。
このシけシる。小便の滲シタリきたる囊フクロを膀胱ハツクダといひシ臍下ヘツ、レタ小あり。
其口シノを陰戸マヘの上際ウヘノカタ小出イデたるものあり。さシく子藏コツボ其後シノ、シ、ロ小位シ、マ、ヒ。
前マヘ小も膀胱ハツクダの尿道セシツ、シ、ニ、チあり。後シ、ロ小も腸ハラタの尿道シ、シ、シ、ニ、チあり。其間シノ、シ、ヒ、タ小嵌ハサマなり。
この子藏コツボ胎兒ハライノコの月ツキを重カサキく生長セイチチヤウをシ隨ツレく張オホキク大オホキクあり。も
故シ、ヤありク前マヘへ倚斜カク、ヨル下小垂シ、カ、リく。横骨上際ヘキツ、コ、ニ、ル、ホ、マ、ツ、ク、ヘへか、シべ。膀胱ハツクダの口
を壓オス也シ。小便ベンツクの通路ツルミチを閉塞トゲフサキて快利ヨロシクぬるあり。こを藥小クサリ

て通トさせんとするも。たとへば喉を絞らるるもの小噴薬
 をもとの如効應をたことあり。喉を絞らるるもの速その手
 を放バ氣息通理ふ。膀胱莖小壓ところの胎兒を提起て鬆と
 して洩利を。其法を廁小登り小便する毎小己の両手を以て横
 骨上際へ重按る。上ののよへ胎兒を提挈やうふして膀胱莖を
 壓ものを寛とす。小便速ふ利むるあり。之を提起小へ重掌小て
 先小腹の皮を下へ引をり。横骨上の腹皮小餘裕あるやうふ
 て。その手を横骨上際小投入く。大力を張る擡舉さす。下墜
 たる胎の復やうふるらぬあり。小腹の皮を下へ持満る。上へ
 提さきの餘地あらしめん。爲あり。さくさくと小便しをとり

て手を放也。妊婦自提こと能はば。便器小跨しめ。一人其背後
 小在る。婦の帯をゆるめ。袂より手を挿る。前の如く横骨上際
 小隨く胎兒を向上をり。何も下の圖を看て檢べ。まよ已小産
 に臨て小便膀胱小實て。兒の出路を礙を。必先其小便を通む
 べ。其法を妊婦を便器小跨しめ。常小便をすることく小し。車
 慣たる婦の隔心をたれもの。と小よく諭告る。産婦の背後小
 接。その跨間より陰戸中小食指と中指をふのく挿
 て。子藏の前のよへ迫ものを釣曳て。上へ擡舉や
 う小をさす。膀胱莖寛鬆て小便快利也。胞裡の洩泄盡たりと
 もハ。手を放べ。かくしと通利をとるうち小疾産科鑿の高



妊婦小便通すのぬること
己の両手を以て胎を提挈する圖



衣服のうへより提挈するやうに
畫たきともその實は直小皮肉
小手を下さねばおもふやうに
ハ提挈した。此のハたゞその
術意を示すまであり。ゆゑ小本文
の旨をよく會得してのちよ行
べし。

さてこの症あるものハ。
懐妊中よりけその飲咳を
ひのへさせねばのからけ後
害あること豫慮べし。

同症人を以て提挈するのこころ



産後の小便閉と
通トカキニシヤ



手あるもの。生婆の術小精ものを招く託べし。まに産後卒小便通ぜざり苦悶もの。其婦の小腹の左方。脾樞骨と横骨と相接ところの内廉の腹部小。微隆起ところあり。そを按尿道へ徹て疼を知らり。その處を按く上の方へ勾引やう小をさば小便利むるあり。さばも初小言ごこくして。下の方へ扯く皮小餘裕あるやう小せ糸へ。痛を知るあり。便器ふる、らせく背後より行へ。左の袂を袒せくそ色より手を挿てよし。産婦萎頓たるもの。仰小卧せく綿絮を陰戸小あて、行も可この三症何も小便通利の劑小てら効あきもの。小く。輕視小をさば、不測之變小逢ことあり。遺専門の人小聽てその治術を受べし。今

此小述ものも。たゞ急卒の用小具んを爲のまあり。

催生薬の心得を説

世小臨産の催生薬といふものを。用ること。俗套をまごも。更小其理をたことあり。時來をいして。いふ小奇效の薬ありとも。婉得べたもの小あらば。陣痛頻をさ小。さやうの薬を連服しむを。却く胸膈小泥滞て害とこそを。利あること決し無るべし。も一薬小く免身ものあらば。草木の果實も糞漑をさ小。時の來を待ば速成熟さるる法あるべけとも。其期小至れば。然こと能ざるも。衆人の知ところあり。かゝる催生薬の益をた。六とまゝ推知を。志のらあとも。有病者とは。常の例小あ

ら杯へ薬の用絶く無といふ小あらば。臨産をた。陣痛を忍て時の來を待。その耐たき小至く坐草小。如む必々着急焦燥ことある也。これ第一の用心あり。

臨産の心得を説

産小臨く難婉ら。胎の軟斜を忍小由もの多け也。産媪小告く。過正位小復しむべし。産媪術疎とま。旁人よく腹を撫て。微小ても倚斜たるものも。按て正中へ復べし。己小産せんことを。期來くる。腰間より股膝へ牽引く。坐卧自由をらむ。重を知。肛門の方へ膨脹やう小もあり。小便頻數小く忍ぶたく。陣痛來頻。或も両手十指頭小脈動を自知もの。こをら免期近小在ま。か

りる候レあク倏タナトナ忽ヒトシキリ一陣痛ハ小ハくく免カ毛シのモあセ色シ也也。そレ色シらハ少シを
るコトとモあリ。已ス小ハ婉ニんとモる小至クも。腰間コシノヘダコト殊ト小ハ重オモク墜ツ。周ソウ身シ小ハ熱ナツ
とモ發モト額カシヒよりハ汗アセ出イデ。眼メ裡ノ小ハ華ハナをモ視ミ。陰マ戸ヘのモ裏ウチ脹ハレたルのト疑オモ也也。陣痛キリ
堪タふタく。破ト漿アゲ先イ出ニとモ微レとモく。胎ハ児ラ子コ宮ノ口ノをモ出イるハり。古ムより
分ワ娩レがモ男ヲもモ俯フ女ヲもモ仰アといフふハ非ア小ハく。男ヲ女ヲもモ俯フをモかラ産ウて。
地チ小ハ落オハハ仰アるハり。破ト漿アゲとモ云イふハ粘ネ滑リたル液エ小ハく。被フ膜ク自ジ然ニ小ハ破ハ裂レ
てコの水の逆散ルとモ胎ハ児ヲもモ車ノ乘リ小ハく。滯ヒるハく陰マ戸ヲをモ脱オ出イるハり。
一サイ切ノの動物ヲの生むル小ハ先マ鼻ハナよりハ。竺テン土サクの古昔ノ人ノ母ハ胎ハ小
形カタをモ成ナとモとモ説トくモ其ソノ理リをモいハるハ小ハく。漢モ土コ小ハ鼻ハナの字をモ初ハと
訓ヨもモ其ソノ意コあタとモり。今イマ胎ハ児ノ産ウ小ハ先マ鼻ハナよりハ。天テ地チ自ジ然ニの妙

理リ思オへハ。故ユ小ハ其ソノ面ヲをモ陰マ戸ヘ向ムくハ鼻ハナよりハ産ウ出イるハもモ出イ産ウ決ケ
て礎あけ也也とモ。破ト漿アゲ後ノ時ト過ス也也とモ。胎ハ児ノ産マ門ヲをモ出イとモ能ナぬ
ものノもモこトもモ胎ハ位マの正ふラぬハ故ユ小ハ面ヲをモ向ムてハ娩ニとモ能ナぬ。頭ア臙マ先
出イてハ陰マ戸ヲ小ハ挿ハ也也。下サ墜リたル由ユもモの多いハ小ハをモ也也とモ産ウ出イ
ふタく。生ト軀ニの術小ハもモ及カふタきハ小ハ至ク。世セ間ケンの帶下サ鑿ク竊ヒソ小ハ鈎カキを
用モてハこトもモ曳ヒ出イとモ。此コノ鈎カキをモ用モてハ顛ア骨ノをモ傷キゆル小ハ免カ出イるハもモ兒
もモ死シぬルもモるハ。あセ止ムこトもモ得エざル計ケよりハ出イたりト雖イ不レ仁ニの
所シ爲ル尤モト惡シべシこトもモ。そノ生イ胎ノもモ死シ胎ノ小ハ諉オく。俗ソコ人ヲをモ瞞カもモのあ
まハるハり。其ソノ他ホカ先マ手ヲをモ挺イ或シもモ脚ヲをモ出イまスらハ横ヨ産サン小ハくハ手ヲとモ脚ヲと
とモ交カ出イるハもモの其他ホカ坐ザ産サンとモ先マ屍シをモ見ミ以レ類ルの手術ノ及カ

さるものも悉コトヘクのの釣カギを用コトことのと認コトヒ甚ハナシふ至マても寤サカゾ生の
尤モトモツ免ヤスキ身ナシし易ヤスもの小カギ釣カギを以コトて兒コを害コソシたりしもあり。あるこ
とを其ナニトモオモフ心ミダリし。安ナストモラオホシふ爲セケン徒ヒロキ多コレ。ゆゑ小人タメ寰タメの廣タメ之タメを爲タメ小子コソスを殺コソスも
の多オホキら幾イクバク何ナニとや。近チカキ頃コら收トリ生アゲ媪ババ小オホキも之オホキを行オホキものありと聞キケり。釣カギ
を用コトることも皆ミナシ俗シロク家ト小カ秘カクレ殊コトニサン産ブ婦ヲ小オホキも知シラセさるやう小オホキもること
あはべ。醫イシヤ士トリアゲバ坐ワザ婆ヨリの術イナチ小オホキ由ツヒキて命ヨソヘを續オホキたりと喜ヨソヘども。己オホキが子オホキもこの
の釣カギの爲タメ小コソシ殺コソシとたることを知シラさるる。蠢アサマシク愚アハムシキ可アハムシキ哀アハムシキこと小オホキら。名利メイリ
小ハシ奔ハシ世人ムギドクの慘ナゲク虐ナゲク。嘆ナゲク息ナゲクべきのさニユりあり。故イマ小チン今ゴロ丁ワタ寧ヨシユ小ワタ告ヨシユ諭ベ
さる。胎イイも被フク膜ク中ノの水ノを車ノ乘モノ小オホキら滑ヌリ脱タシテ免ク身トイフといふ。自然シゼンの理リ
小コソシ意トメを潜クラフて審サツ思ヲをば。その之コレを救スクべき手段シユダンを俗シロク家ト小オホキも發ハツ明メイ

とべきことあり。况マシ賢イシヤ家トリアゲバ生トリアゲバ嫗ババを予イフの辭マケを待マケて知シラべた小オホキあらば。
予ワレもた。釣カギ術ツカヒの世ヤ小ニチ廢ニチ棄リて。兒コの横ムリ死シもるものあらんことを
欲ホクのと素モト專ツク門セン小オホキあはれ。婆セハヤ心ココロの黙モダレ止トふさく。俗シロク家ト小オホキ告レ諭スルを
也。其ソノ蘊クシヤク奧クシヤク小オホキ至マて。世ヨの收トリ生アゲ媪ババ小オホキ傳ワタる廣ヒロク天下オホキ小オホキ行オホキしめんと思オモ
て。別ベツ小シラ手シラ記シラた書ホンあり。惣スベてか。禍ワガヒ小カ羅カも其ソノ原モトを檢ケン色シハ。皆ミナ
攝ヨウ生シヤウの天サカ理ヒツ小ロ逆モナ心スナホ意ホの和スナホ平ホをらぬより起オコるものあはべ。婦メナ人ナ
るもの豫カ小チより懷クワイ孕ニシの自シ然ゼンある理ツケをよく明アキて坐オキ卧フシ飲タベ啖モノを慎ウシ心ココロ
意モナの寛ノビ舒ヤカ小オホキあるやう小オホキもべたことあり。も。不然サナクし。徒イタ小チの
とこ也。熱アヒ中ニ陣シキ痛リの耐タふたさや。努イキ拚ミ小オホキも。心ココ身ロを勞アカラ費ラシ氣キ逆ホセの
ち小チら。諸ハラ藏ツマ經ネ脉メ上カミ小オホキ牽ヒキ引ツリ腹ハラ肚ウチ擾チン亂ドウし。卒ツヒ小オホキ難ナシ産ザンとあるも

のあまは。今イマ娩マシ身ミまでもコ、ロモチヘイセイ心意平素小異カナルことあり。必オマシ其自然ソノレゼン小委マカスべし。どの期ジセツキタラ至キ杯ハ。いオモフの小思オモフとも産ウマルをキきもの小オモフあらば。こオモフ色シら
のことと常フチ小記コ、ロシトノ得ワスレて忘ワスレさるやう小オモフをべたこと肝カン要ヨクあり。然オモフこ
れら必オマシ難ナン産ザンなく。娩マシ後ゴの變ヘンもあるべらば。故ユエ小コ此コノ一イツ條ジョウより外ホカ
小用コ、ロモチ意エありと豫カシテオモフ思シべし。まイ産イ椅イを用ヨることも宜ヨシあらぬこと
あから。是コレまセ習セ俗ケンの常ツチあり。卒ニハカ小廢ヤメたイと雖イハレモスベ凡サンて産ゴ後ゴ小
ら心オモシ身カラ萎モフ頓カレものありと産イ椅イ中チウ小端ビョウ坐スせテ睡オムル小も頭カシラを俯フサしめ
む。もイ微オホも偏カタヨレバ旁カン侍ガク者ニン之コを警ヨビ覺サマし。七ヤ夜ヤを過スまスるカクのオお
とく小オモフをること。習ナラハセともいひあるらも。其ソノ狀アツサマ死シもうつセめ小
類ルシく。産サン婦フの精キ神シン大オホ小困ウツ憊カレ虚フツク乏シ。血チ液リの運メ行ケリ遲アレクナリ溢ヤス易ク。後ゴ日ジツの

病因ヤミヒノタマとあること明アツカあり。惣スベく産イ椅イ中チウ小在アル間マ。腹ハラ中チウ寬ニル裕ヤカあらぬ
バ。殘チ血ケツの洩モル路ミチを挂サマ碍タケルこと多オホク。腸ハラ胃イ舒ラ暢ワタあらざシ。飲シヨク食シヨクの消シヨク化シヨク
も柔ヨロシ順スレららば動ユヅルハ熱カモを醸カモし。乏シヨク食シヨク眩メキ悸メキ頭ツツ痛ツツをどし。便ワツ利リ調トウじ。膝ヒザ
脛ヒザ麻ヒレ痺レ後ノチ々ク脚カク痺ア癢レ雙シホ小オホあるものあり。故ユエ小産イ椅イの害ガイを為ナスこ
と如此カク居コトク多オホキを知シラハ。斷ナク然シテ用フべきもの小オモフあらば。孕ハラ婦フある家イハ翁オホ及キ
婦フ人ニも。此コノ理リを會ガ得チせば。他ホカより問タツ訊ツクものいあることといふ
とも。そ色シらのこと小疑マド惑フことなく。産イ椅イを去スて用ヨることなく。
娩マシ後ゴ々ク枕マクラの方カタを漸シ小オモフ昂タカクく。常ツチのやう小脚アシを伸ノビく側ヨコ卧ヨ小
をべし。その蓐コシの製シ々ク下シタの圖ニツを看ミて知シルべし。世セ間ケン小用コひ来キ産イ
椅イを廢ヤメて々ク如イ何カあらんと。疑ウタ惑ガヒ解ハレやらば。平ヘ素イ注コ意ロて産イ椅イを

産褥之圖

被褥敷教を用いて重層て
凸凹をららぬ漸小昂

あるやうにして

只肩の當處を少西

側より低し其上の褥子

を鋪枕を軟ある

その代用で褥の下

より細めてつりを

おけて轉ぬやうなをべし

枕の昂々宜とも餘に昂ハ

好らげ大要頭と脚との

高低一尺餘を程とせし

七日を過て少低し二七日々

程ゆる常の如しとせし

可或る褥子ふく圖の

ごとくふくこらへ

せし

下のへあけんると

おもへるもの

の褥子

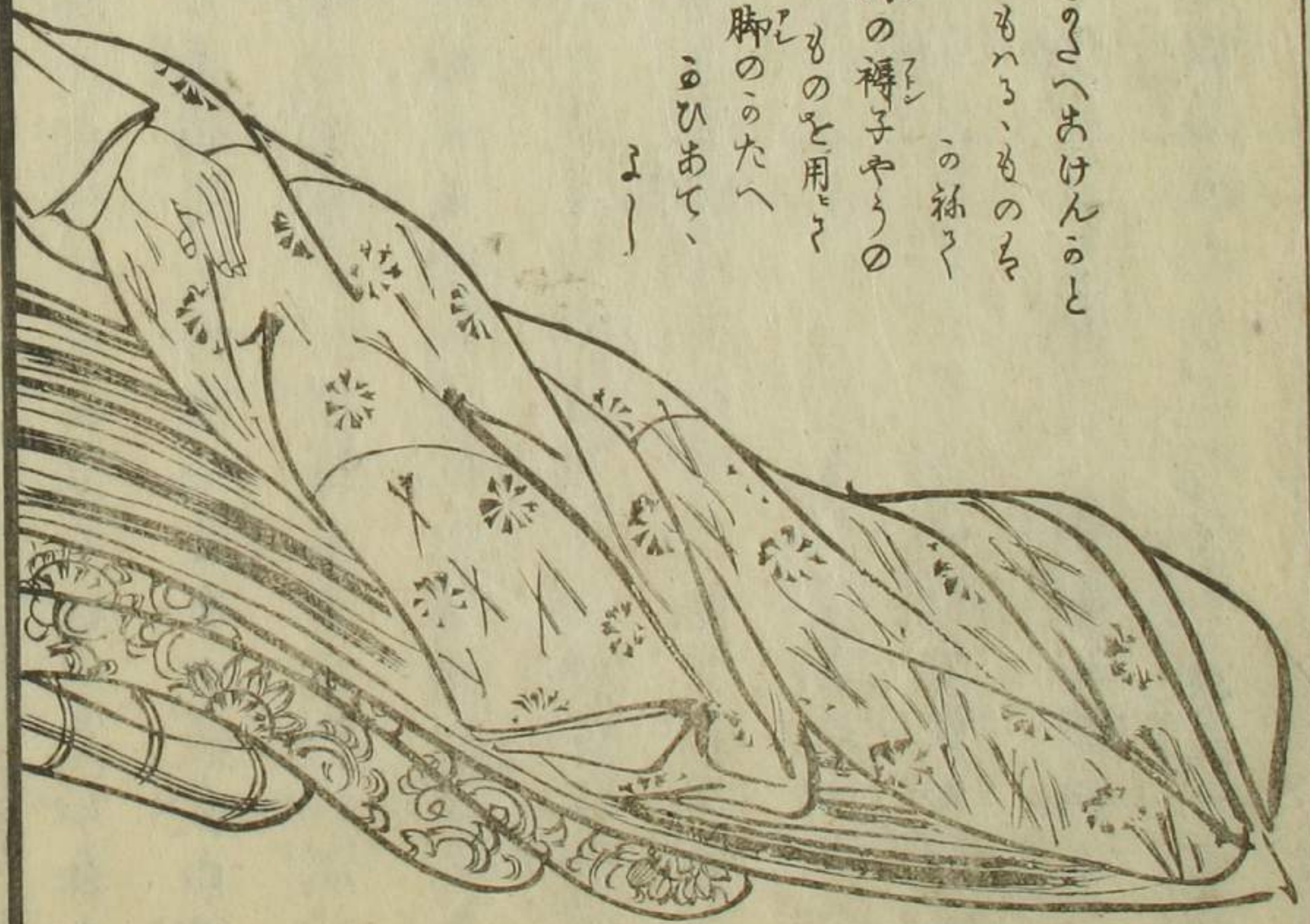
別の褥子やうの

ものを用ひ

脚のたへ

をひあて

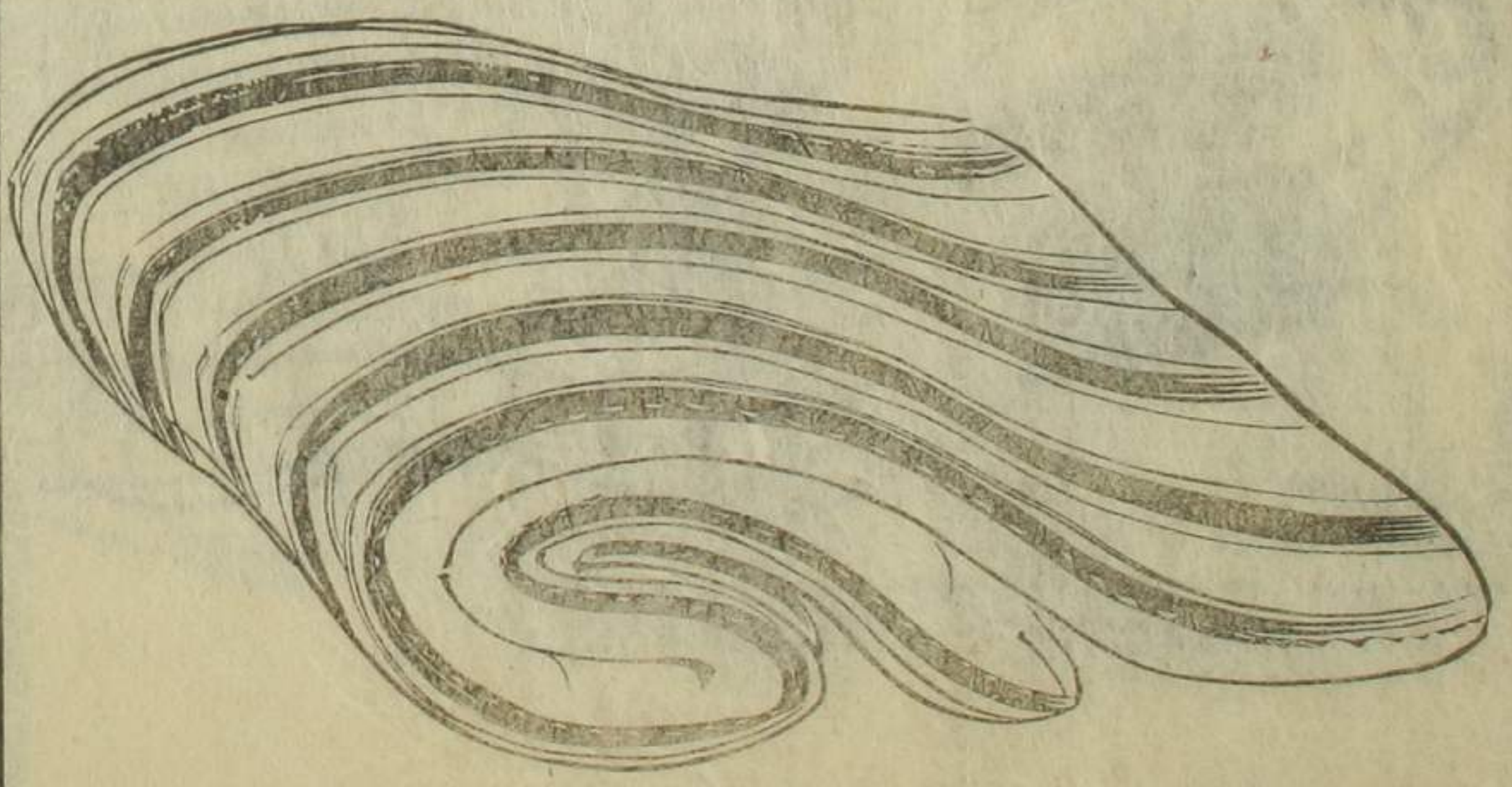
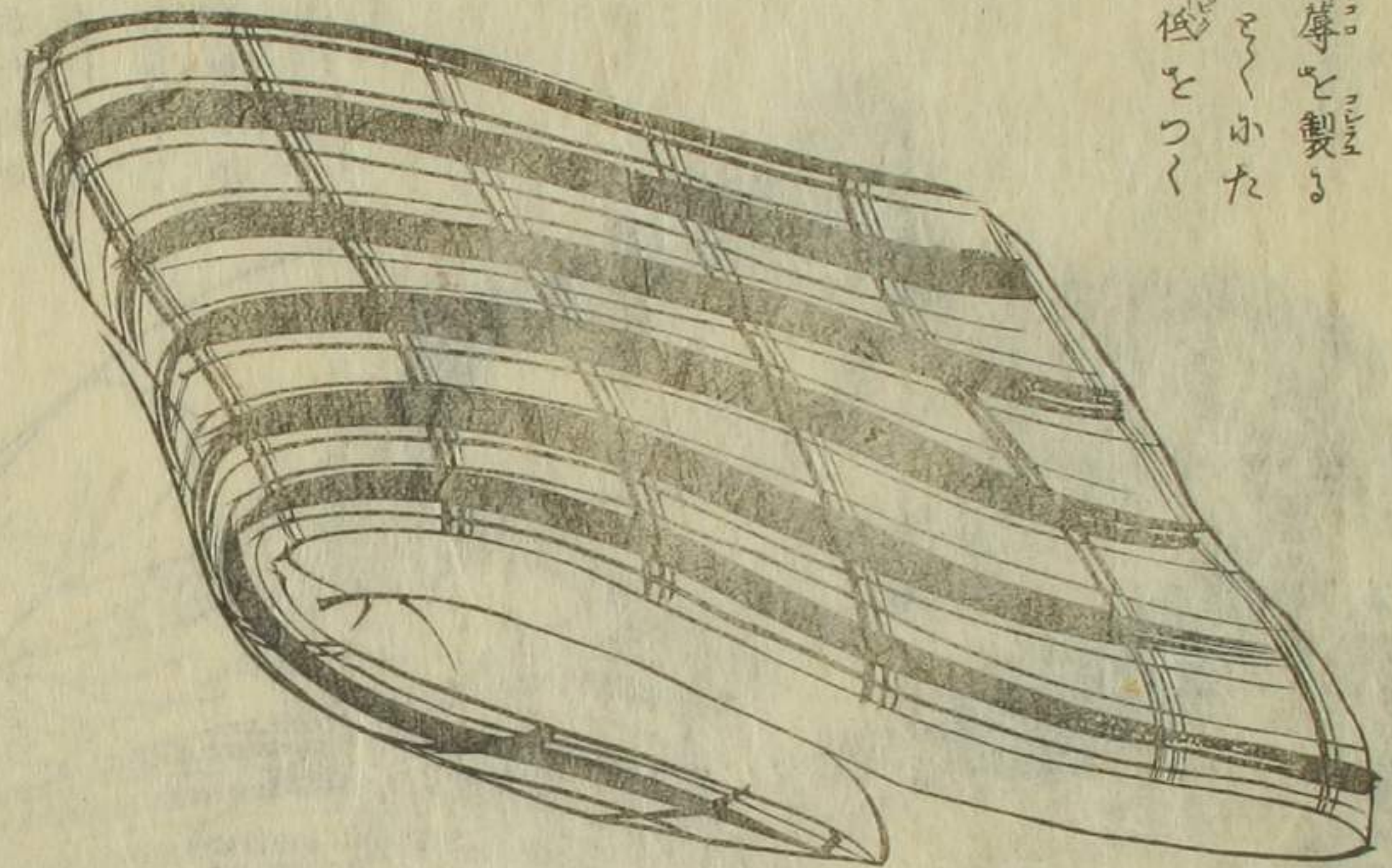
し



圖をその状を示ため
ふくのおとくあれども
産婦の體はこゝより
あちつくやうな
せしこととせし
うせし

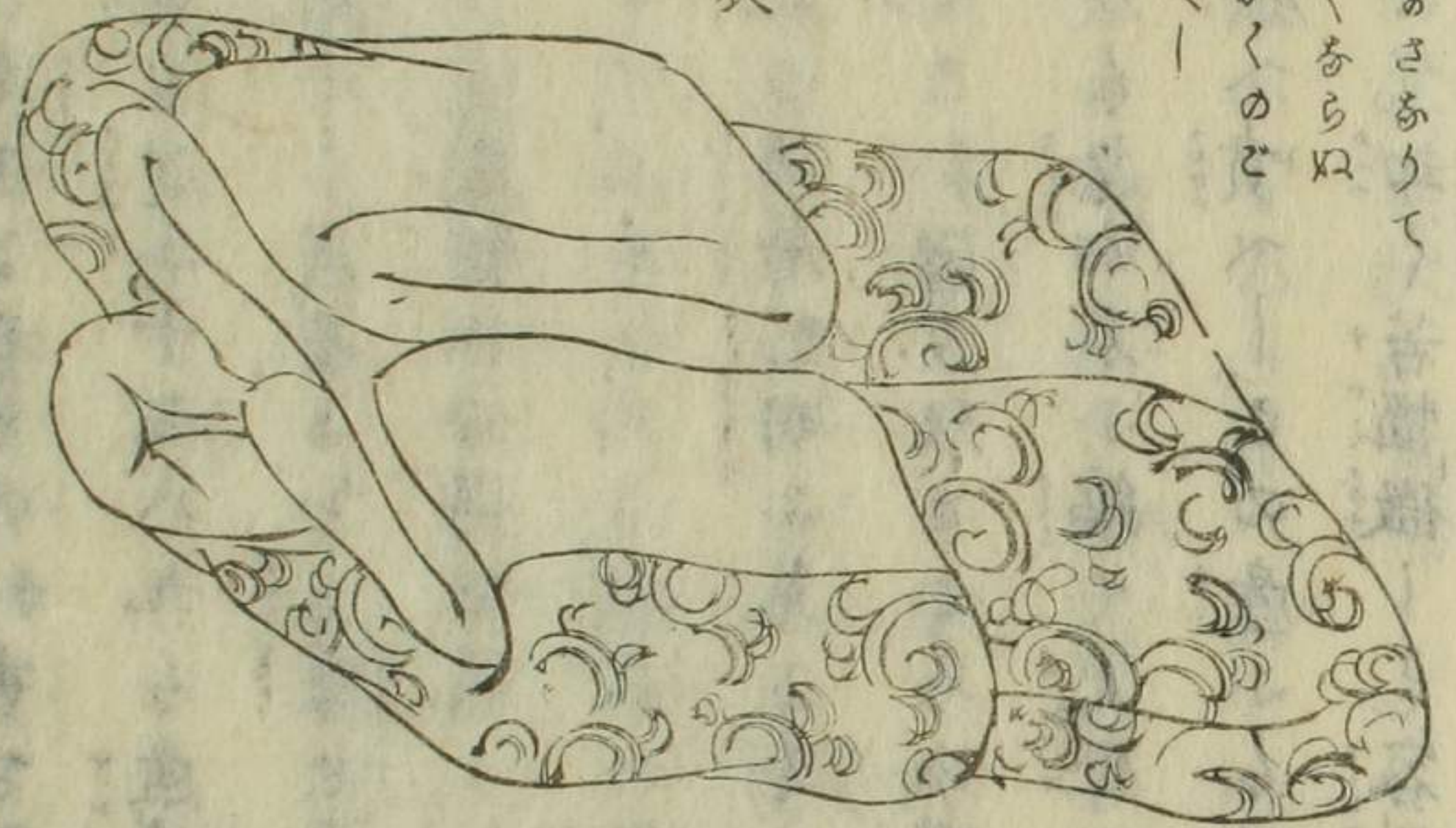


苗褥を用て産尊を製る
 小らるくのおそく小た
 らるて漸小高低をつく
 るあり

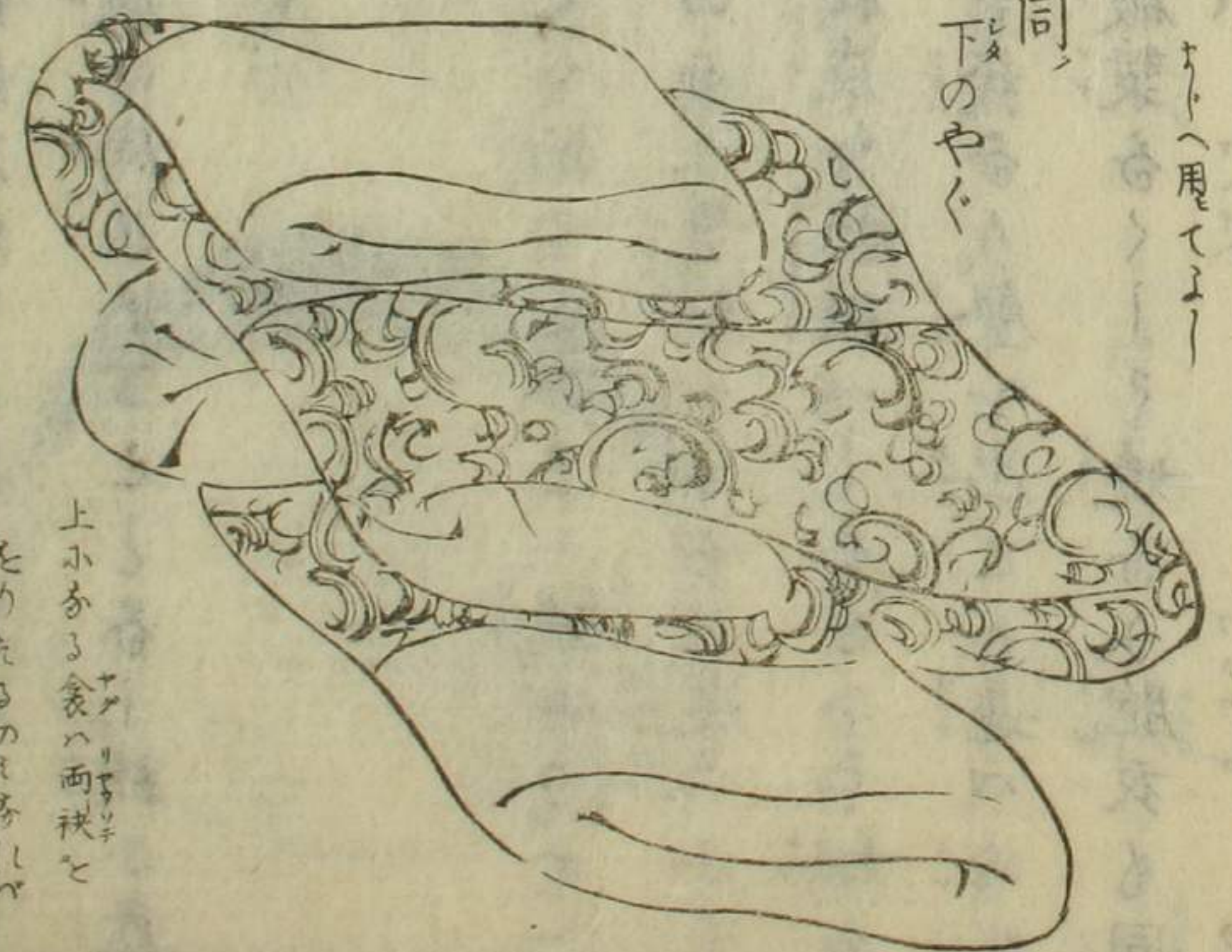


被褥の襟のさありて
 中央のたのくをらぬ
 やうふしてかくのご
 とく小重層へー

前の圖
 中の衾



小時被ひまき
 下へ用てよー
 同
 下のやぐ



上小なる衾へ両袂と
 をりたるのそをれば
 こふ圖せき

用る人と用ざる者との利害を辨知せしむることあり。其用ざるものも復素も速小。十の八九は産後の病患あることあり。故小産椅を決定し用ざるを上策とす。

被膜胎の心得を説

被膜胎といふものあり。胞衣の囊を脱むそのまゝ、娩あり之を透視へ。児の蹲居形明小見るものあり。驚駭べらば速爪小く児の頤下とおほし死ところの膜皮を抓破べし。小刀小く切もよし。膜皮を忽四方小縮て児聲を發あり。聲を出こと遅バ冷水を児の顔へ噴べし。この産ふる破漿をくくく娩あり。胞衣も同續て出さバ。却く苦惱微く容易し。一家小くこの冒膜兒を産

たるもの其異状小驚怖て之を捨さりいと聞り。世小を是らのおとあはれ小もあら絲ハ。圖を此小示のこ。さて胞衣と膜とを自別あるものを一物と誤認する輩あり。是を此小用をたことあまばいもは審知んと要ものも。坐婆必研小記載するを視べし。因小いふべきも。兒落地と聲を發む。或る手足軟癱。色青白。死ぬる見ゆるものも。まづ冷水を頭面及背上へ頻小灌べし。是も小くも聲發ば。吸呼もあはれおごとく思るものも。仰小臥しめく。肩井より膏育の邊を背の



五七推の二行とや
 を指頭小力を専て強
 揉とき小も多も聲を
 出る聲發たる後ら
 壯健ある婦人の懐小
 膚小著温べし。男子
 も無妨臨産期過る。母
 子とも小虚憊する者
 小多あると小尤
 識得べしこと也。



二行とほりの
 五六七とハ
 このあとのり
 のこと
 いふあり

産後の心得を説

産婦を椅子小在しめ。横卧を禁ぜし流弊も全金創を縫裏帯
 ろど施する後身體を動搖の創口再被開て。血の洩出ことあら
 んのと懼て。危坐をよしとせしより。錯来するをらめと。産後の
 泄血もをせしとる大殊小し。少けは必後害あること小。且天理の自然小病小あらば金創をどし同一小も心得べし
 らば。殊産椅の害衆多こと。坐婆必研小も記する如を。断然
 廢て用ことなく。前小圖をること小臥褥を造る側臥小さを
 へし。必起歩る。幕小着しむべし。匍匐小さをる。産後小鹽を禁る。瘀血の下
 らのこと小坐婆必研小説あるせり。

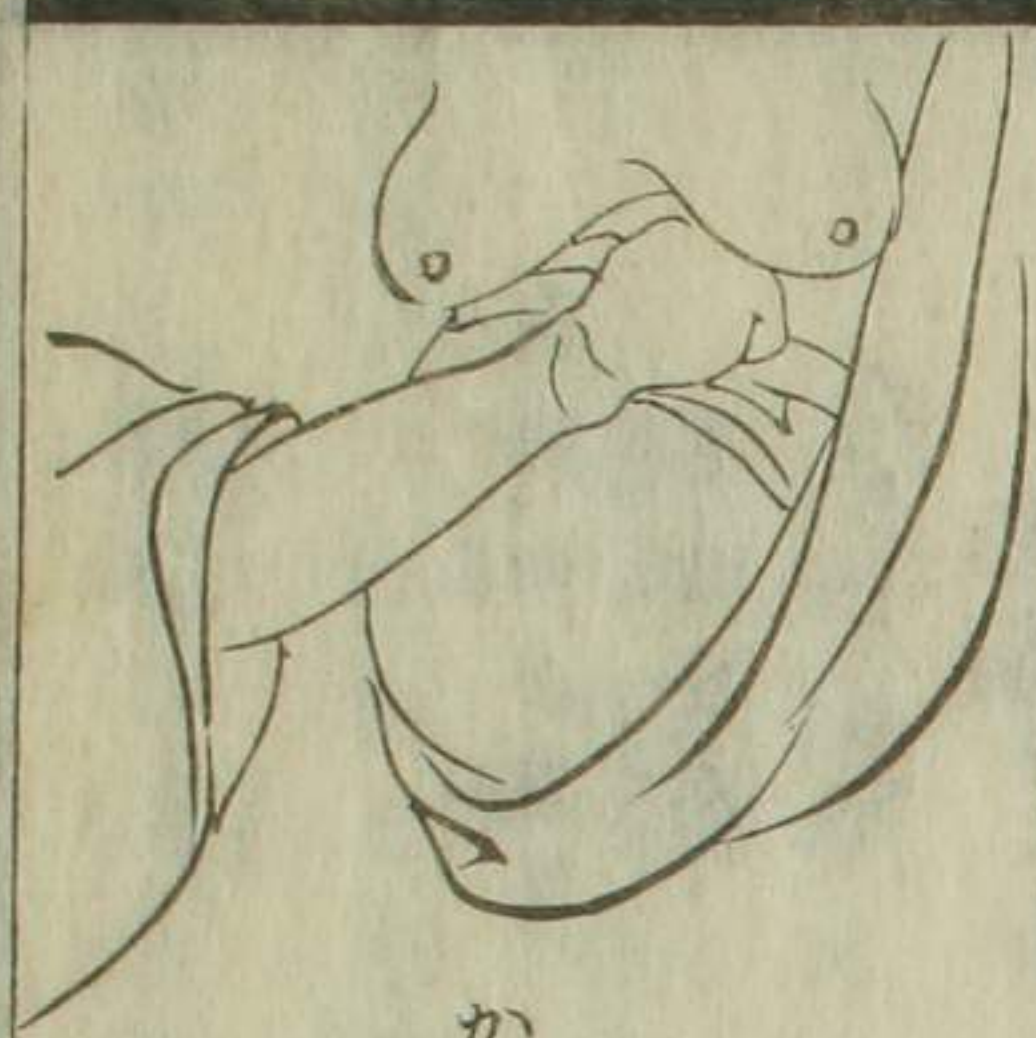
こと少のらんこと戒懼るあきども。毫も喫しぬさるも。食を拒
く害をあることあきバ。宜らぬことあり。魚類を愾く禁ば性
味輕淡も用く苦む過小食禁の嚴ら却て不可ことあり。くきく
も天地自然の正理小孕さう生さるもの。鎮帶を用て
緊束し。産椅小坐く苦楚しむさうへ。飲啖をまら嚴制し。味を
失しむること。いさぐの生意小適べ。然せんより。初小其色
慾を戒身體を運動て。消化小礙なく。心氣を和平とし。憂悶を
のらしむることを巨益を也。又産婦の室中を冬も温煖小さるも
可け色ども。火爐を多安。數人會聚も好らば。時々便房の屏障
を徹鬱塞たる氣を排洩べし。夏秋の亢陽小。桶子も窓戸も悉

開く。清風の往来あるやう小をべし。屏風蚊帳も無用あり。も
室裡鬱蒸を也。産婦肌熱し汗洩れど。體徳病發く。不測之變
を招くことあり。ゆゑ小四時必其氣候小從く。常の棲處を異こと
あく。旁人も居小適やう小さること。あき第一の心得あり。今の
世豪商や貴族の産後小。諸患あり。平穩をらぬ。この用意あ
しく。自然の道小戻が故あり。このことよく顧慮あるべし。
眩運のこ、ろえをこく
産後の眩運劇も。腹を上部へ牽引やう小あり。胸へ衝逆ゆゑ小
頭眩或運轉く。生氣を失あり。急卒小發もの小く。醫工も問小あ
えぬことあり。此症も下より衝突く。心窩を左の肋の下へ連く

急迫^{オシセマル}ところの塊^{カケ}ある。そを^{オシメテ}壓鎮得^{オシメテ}と^{ハセ}死^{ハセ}ら。劇症^{ハセキセキ}をも救^{タメ}べし。ゆ
 る小病^{ヤミヒオコリ}發^ヲよりこみ^{ラハ}バ。捷疾^{ラハヤク}その婦人^{メカヒ}小向^{ヒヤリノテ}る。左手^{ヒヤリノテ}をその右脇^{ヒヤリノテ}下^{ヒヤリノテ}
 より回^{アツレ}る背^{セナカ}へ^{アテ}抵當^{ナリシタ}乳下^{アツラハレ}の肋端^{ヒヤリノテ}へ右手^{ヒヤリノテ}の大指^{ヒヤリノテ}と食指^{ヒヤリノテ}とを^{ヒヤリノテ}左右
 へ開^{ヒヤリノテ}て。其衝^{ヒヤリノテ}逆^{ヒヤリノテ}ものを^{ヒヤリノテ}きびく^{ヒヤリノテ}下^{ヒヤリノテ}の方^{ヒヤリノテ}へ^{ヒヤリノテ}壓^{ヒヤリノテ}下^{ヒヤリノテ}やう^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}べし。拳^{ヒヤリノテ}
 頭^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}ても^{ヒヤリノテ}掌^{ヒヤリノテ}側^{ヒヤリノテ}骨^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}て^{ヒヤリノテ}按^{ヒヤリノテ}も^{ヒヤリノテ}よし。産^{ヒヤリノテ}椅^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}在^{ヒヤリノテ}もの^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}多^{ヒヤリノテ}け^{ヒヤリノテ}き^{ヒヤリノテ}バ。其^{ヒヤリノテ}時^{ヒヤリノテ}
 接^{ヒヤリノテ}者^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}左^{ヒヤリノテ}足^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}伸^{ヒヤリノテ}る。婦^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}右^{ヒヤリノテ}方^{ヒヤリノテ}へ^{ヒヤリノテ}身^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}と^{ヒヤリノテ}つ^{ヒヤリノテ}く^{ヒヤリノテ}と^{ヒヤリノテ}入^{ヒヤリノテ}る。婦^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}體^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}
 靠^{ヒヤリノテ}し^{ヒヤリノテ}め。左^{ヒヤリノテ}手^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}婦^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}項^{ヒヤリノテ}へ^{ヒヤリノテ}勾^{ヒヤリノテ}る。志^{ヒヤリノテ}つ^{ヒヤリノテ}る^{ヒヤリノテ}里^{ヒヤリノテ}と^{ヒヤリノテ}抱^{ヒヤリノテ}婦^{ヒヤリノテ}體^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}些^{ヒヤリノテ}も^{ヒヤリノテ}動^{ヒヤリノテ}揺^{ヒヤリノテ}ぬ
 やう^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}し^{ヒヤリノテ}る。左^{ヒヤリノテ}右^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}手^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}緩^{ヒヤリノテ}む。殊^{ヒヤリノテ}右^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}手^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}毫^{ヒヤリノテ}も^{ヒヤリノテ}動^{ヒヤリノテ}ること^{ヒヤリノテ}か^{ヒヤリノテ}る^{ヒヤリノテ}れ。
 か^{ヒヤリノテ}く^{ヒヤリノテ}し^{ヒヤリノテ}る^{ヒヤリノテ}も^{ヒヤリノテ}生^{ヒヤリノテ}氣^{ヒヤリノテ}つ^{ヒヤリノテ}る^{ヒヤリノテ}べ^{ヒヤリノテ}バ。旁^{ヒヤリノテ}人^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}冷^{ヒヤリノテ}水^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}婦^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}面^{ヒヤリノテ}へ^{ヒヤリノテ}頻^{ヒヤリノテ}小^{ヒヤリノテ}噴^{ヒヤリノテ}し^{ヒヤリノテ}む
 べし。水^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}か^{ヒヤリノテ}く^{ヒヤリノテ}る^{ヒヤリノテ}間^{ヒヤリノテ}も^{ヒヤリノテ}按^{ヒヤリノテ}たる^{ヒヤリノテ}手^{ヒヤリノテ}を^{ヒヤリノテ}慢^{ヒヤリノテ}べ^{ヒヤリノテ}ら^{ヒヤリノテ}ば。徐^{ヒヤリノテ}々^{ヒヤリノテ}と^{ヒヤリノテ}そ^{ヒヤリノテ}の^{ヒヤリノテ}ま^{ヒヤリノテ}、

産後の眩冒を救ふ圖

この術を施す人、向へのま
 か、まておのま身とひつ
 たりとよせりけ。婦人の體を
 靠る、らるるおあらはるる
 一えられたことあるとも、こ
 小のその手術を示んかためか
 かくと畫るありその心得と
 みるべし。



かふる小
 拳を以て
 まるのたち

産椅中小在て
昏眩と發一
たるそのと
曳出どころ

足の指さたふて
森のくふやうか
あざくはつらあり



小身を曳く。婦の靠たる體の揺ぬやう小椅子より出。直小高
枕小横卧小さとべ。側卧さるまぐさほ按者の手をゆるめ
と衝逆の勢の鎮墜と待べ。指頭疲たらへ人を代しむる。手
を換るあひさも毫も慢弛をべあらば少選をるうち小復素も
のあり。この昏眩の發小も多方の病因あり。瘀血下の祓く發あ
る。脱血小く發もあり。脱血より發ものち。過小其血を防さば
眩暈も止むたたもの也。其血を過の術も次小記をみよ。胞衣下
ましく運を爲もあり。何も胸下を按く壓鎮ることちかある。こ
の眩暈の發んとさるまへふる。口吻鼻旁肉潤ものあり。とさる
やみく眼眶小及ものち。昏眩直小發ありと知べ。故小婦人の

顔をよく看る。按指頭の輕重を酌用をべたことあり。伏龍肝の
細末まさら麻の嫩苗を焼存性ふいよるもの。はさら麻芋を焼
たる細末の類少許を。新汲水一盞を以て用べし。こゝ小一の秘
訣を示あり。産後の昏眩を治す。右の藥効ありといふ。冷水小
く用るの故あり。冷水産後の昏眩を治する小妙効あり。故小産
後直小新汲水一盞を喫むるに於て昏眩の患を防べし。こゝを
往昔の遺法小く。近世の高名ある醫士も。黒藥といふものを
冷水小く用ることを傳へ。其實水小効あることを秘したり。
そを故あることあるも。水小く、奇効あることを俗家
も的實小知得べし。不測之變を救ふことあり。其説既小坐婆必研小

記載たどとも。再此小其梗槩を述べ衆人小論のそ。又昏眩發や
いふや即死するものあり。そを逆知て衝逆ものを按壓をば
救べし。も一既小昏倒脈絶呼吸も斷。胸下を按ても其効なく。請
一醫生の伎窮たらば。疾券術の精煉者を招べし。活法小く甦生
をることあり。おは審べたことあり。おは後の急病の條を參査
べし。

瘧病ををくふこゝろえを説

瘧と瘧とちをと類似たる病あるも。瘧を妊娠中小發瘧を産
後小發小産後小尤多。瘧といふも。卒小角弓反張。身體到直て俗
小棒を吞たるといふやうある形小ある病あり。瘧と瘧との分



おるゝ症を卧さる
まゝ小發したる
ときの手術



起たるものを抑壓たる
のち小この脚をまこ
さちうひ小曳て尾骸を
とつきありかゝさく
めぬうちひきてハあ。



痙病をもくふ圖

産椅のうらふく

瘧と發たるを

抑鎮するに

こきも前の昏眩の

ごとく産椅より

出して側臥させ

衾をかぶるなり



ら。癩と發ハ人車不省。瘧と本生と失ぬものあり。但一癩と心下

大小苦憊。瘧と心下とさせることかく。唯身體木彊小るあり。

瘧病劇甚ものら。をかく一とほ里の力小くを壓鎮ふたれもの

をかく。疾丈夫の臂力者を一と病婦の背後小接し。婦の両腋

後より男の両手を伸く。両肩より頸上へ會く。十指相叉。力を用

て下へ壓やう小をべし。起さるものを抑屈たらば。頸勁直さる

臀を轉るよし。向小人を居く。兩足を扯く尻をえづさしむるも

よし。頸へ鉤たる手をを縦む。頃刻抑定さる。病勢平穩小る

らば。いふも力耗く忍がたく。男の帶やうの物を用く。頸よ

上膝へ懸引べし。まよ臥さるま、小瘧を發しを。其左右小拘

を側臥ヨコゴシ小こさせ。男ソノヲシロ其後小就マワリマフ前のごとくにカタテ隻手をワンナ婦の腋ワキ下シタに
至カタ肩へ出イダシく頸クビへ着カケ。隻手カタテを婦ワンナの膝ヒザへ托カケ。左右サカヒの力をツクシ悉オシスて屈曲カクムべ
し。まイマスと産ウマ辱カ小こ在カリて瘕ソリを發オコシハ。前マカヒ小對カミく坐スリ男子ウツリの膝ヒザ小こ婦人メノの
膝ヒザと屈オサヘ。右手ミドリノテも婦メノの左乳ヒダリノチノシタ下の肋骨アハラボネと腹部ハラの分サカヒを按オシ。左手ヒダリノテも直スグ小
頸クビより肩カタへ勾カケて抑屈オシスべし。瘕ソリ病ヤマヒ發オコんとする前マカ小こも胸肋乳ムネハラナの邊ヘリ
までもヒキワリ瘕ソリ急キヤクをかほえ。やぶく口頸クチノクビ小こも齒齦ハダキ小こも及オヨぶものあり。卒ツバ
急カ小發オコリて鑿イシヤを招マモクむまもあはれことあり。志ココロあらんもの豫カキて記ココロお
のバ。急キヤクを濟スグことあるべし。その術ビシラも圖エツを按ヒキく知カべし。
崩漏オシカオリシキの意得オモヒをそく

娩後サンゴ血漏チクダリ下シタて止トマむ。眩暈メマヒを發ハツし。或アルも熱アツと釀モウシ。汗アセ多出オモク。胸腹ムネハラ動悸ドウキ甚オモク

かど。種サマク々の證シヨクあることあり。或アルも月ツキを閉ココりも血チクダリ下シタり止トマむたは
ものあり。かゝる類ルビその鑿イシヤ藥ヤクを施ナス小間ヒマあらハ。敢アヘて懼オソレ小足タラびと
雖イヘトモた。其卒ソノニハカ暴チクダリ小血チクダリ泄シタさシりて。盆モノを傾ウチみ如ゴトき急遽ハヤシキレヨク證シヨクあり。と
捷サツソク急キヤク小其血ソノチを抑オスささハ。元陽ゲンキ忽タチマチ虛脫ウツレく。鑿イを招マモクむまをほシハ。
遂ツヒ小死シ小頰オモムクものあり。之コレを藥劑クスリのそ小治イデサんとをさハ。決ケツし
く救スズクことを得ウケべららハ。此コトの如ゴトく火急ヒヤカ小發ハツをる小とある證シヨクを
さハ。俗家シロウト小も平素ヘイセイ記得ココロエて。其變ソノ小應オウをシらハ。此證コト産後サンゴ
小のカギ限カギむ。常ツキの月信ツキヤクの時トキ小もま、あることあり。之コレを救スズクの術ヒカク
も。其婦人ソノメノを側臥ヨコゴシ小こさせて。下シタ小こをりし脚アシを伸ハシ。膝ヒザの下シタ小褥子フトンや
りの物モノを疊タてあておひ。上ウヘ小こをりたる脚アシを屈カクく。臀肉シツノニクと雙手リテ小

てあると按て。頃時動揺ことある也。かくを色ハ。陰戸闕て血の
 泄下へた道を壅遏その間小。子藏中の破裂細脈漸小愈て自然
 小止ものあり。かくくも陰戸閉るさくおほゆるものも。繭綿
 を大さ團炭のごとく小束く。陰中へ深送入る。その後側卧小
 て。腎肉端と按べし。綿を意外小多く實もの小て。いさゝあ小て
 ら益ある。且木綿をわくく。必繭綿を用ることと思べし。もし昏
 眩を帯ものも。左手も腎右手も肋端不容の部と按こと。眩暈の
 條下小述のごとし。そ色を兩人小く作もよし。まゝ冷醋を喫
 む。或も口鼻へ沃るけ。あるひも塗もよし。病勢劇熱あり動悸甚
 小る。冷水を服しぬ。水を頭面小噴かど尤捷効あり。その奇驗あ

山崩漏を
 救ふ
 圖



崩漏と冒眩を

併發したるを

救ふた

本文もこの圖も左手ハ腎

右手ハ胸下を按ことと

記さしとも左右の時め

宜小從こと、思べし



る。陰門中を冷水ヒヤシツ小く洗アラところのツ術あり。とせふる小兒の
弄具モテアソビモノ小竹を以ツケ造ツクる水銃ミヅテウあり。まと外科ケウカク小く金創キリキスを前アヘ小用
るル鑰銅クワウの唧筒シツハダキあり。ことせらる小く冷水ヒヤを陰戸マヘノウチ中へシ頻小シバシバ彈射ダンセツこと
尤モトモト妙ミウあり。手術シユジユ右の圖エを細覽トクシて參攷カンカフべし。惣スベて久漏血ナガガクの婦人
も。寢イ小く必カナラこの用意ヨウイ小く。陰戸マヘの密閉トゲアフやうス小して卧フスべしこと
あり。はと胞衣ノチサンの子藏口コツボノクチへハ澁滯シヤウシヤウ。崩漏クワウロウの止トめたさものあり。そ
の胞衣ノチサンを頓スミカ小下オロスことと坐婆トリヤバの術ワザあり。坐婆トリヤバもし心得ココロエなく。疾ハヤ
乳サ鑿クワの高手ウツクシヤあるものを招マテべし。たつてをやく鉤ヒキイタ去ク。あとへ繭マ
綿ワタを送實カイて。側卧ヨコガシ小さをまるまることとあせども。こと、るえなく
てら。あらく施ホシふたれことあり。

胞衣下さるゝ死の心得をぞく

児落地て。次々胞衣の下るも順をよきも。若子藏口孳縮で速小
下來さる時を衝逆昏眩を致し。之を爲小命を殞ことあり。こま
を世間の醫者も胞衣の唐突く心を衝ものともよきも。是大を
る差誤あり。子藏小ち子藏の位置定あり。いのちと孳急とも
其部を離腸胃を排。逆て衝撞をること能ぬもの也。こと小
分免後の胞衣も子藏中小蛻棄たる寒物あり。何の勢力あり
の上迫ことのあるべし。然をいひ。昔より産後の胞衣
下さるものを醫俗とも小巨患をよしたるが由也。旁人の倉
皇失措のよあらば。産婦も胞衣下さる小焦心て。己の死生をこ

の一舉小在と慮の故小。氣逆甚く。その餘響を子藏小及で。大小
孳急をよ。諸藏上迫て。卒暴小死を致あり。免身て後この胞衣
も。人身中小於く長物あるが由也。暫時子藏中小寄託と雖元
氣幹旋必ことあることを厭て。排擠んと思ひ自然の妙をよ。バ。
産婦の心神穏平小して。懸引衝逆ことあけよ。決り害をよ
ことある。胞衣もそのまゝ。小子藏中小く糜爛て自下ものあり。
暑天の頃も尤腐敗やま。五七日を過びて下ものあり。故小
胞衣いゝ小くも下がよものも強て之を下んとする小及
び。た。産婦の心を安慰ことを最として。或を下たる塊血を胞
衣をよとく婦小視せしめ。其心降く倦睡を催やう小をべし。斷

たる臍帯あらば。その物を戴く視せしむるも可。尤旁人ふも戒
る。發漏をのらむべし。如此を色ハ其産婦の志氣必平穩小
至。子藏の撃急をなれものなれば。胞衣下はさく。決して死ぬ
ることなれことあり。も一胞衣下を子藏を窒礙く。残血の下
ぬものあり。赤色をそのま、小坐視おたれものなれば。帶下鑿
の收生媪の高手あるものを招て。過小抽去しむべし。赤のほど
を産婦の大小虚憊たる。胞衣を暴小下て死ことま、あるも。
車小處さるもの、過小し。尊鑿生媪の恥をさることありと
知べし。ま一婦産後の胞衣既小下たりと思ふ。寢食常小復て
の後偶近處へ適ことありし。運歩何の苦勞もなれ。留款移

時て。廁小登し。小腹裏微痛ことを知。陰戸より下りたる
物あるを異て。よく看色ハ胞衣あり。大小驚駭をのらも。自曳出
る潜小棄たり。さ家小歸る母小かく告小。其母習車たる老
媪小て。前小胞衣の下を拭し。も一懊惱し。氣逆もやせんと
慮へ。胎児とも小下たりと詔て過せしと應よりし。時過
る自然小下るものなれば。見聞せること多けきども。こ色ハ産
後月を閱。他行さへ爲まで。胞衣をほ子藏裏小ありし。一奇事
あり。こ色ら小ても胞衣の下さる。頃小命を殞不との患を死
ことを審知をべし。然を俗輩のなれば。坐婆も鑿工も。胞衣の
下さると一大厄と思こと。の構味より。世間の婦人こ色かため

小氣死キレシまること幾イタクをや。このおとの慘怛イタマシキ小より。予オノの老婆オヤジメ心を
 廣人ヒロク小告ヒコて。横天ヒゴラの寡人オノカことを欲ホカフものあり。

病家須知卷之四終

病家須知 一名病家くらしえき
きりあげむらぬま 一名坐婆必研
四冊に分けて前後二編とん

全六冊
 全二冊

擇善居主人著

水療俗辯

中本 二冊

灌水洗水服水等惣く水を用て
 病治まる試験考證を國字
 を以て詳小記と俗家小論以既濟
 微言中の抄録和解なり

今大路道三法印述

翠竹菴養生物語

擇善居贅言

一冊

長田徳本翁著

知足齋盪鈔

十九方原本及
 極秘方合刺
 擇善居附言

一冊

長田徳本翁真蹟

知足齋盪辯

擇善居附言

一冊

擇善居主人述

盪道麓の蘆

盪學の用心取捨を詳小
 論と後進の盪生小言と以
 初篇より二冊刊行

京師寺町通松原下 勝村治右衛門

大阪心齋橋筋安堂寺町 秋田屋太右衛門

江戸芝神明前 岡田屋嘉七

浅草茅町二丁目 須原屋伊三郎

日本橋通二丁目 小林新兵衛

日本橋通二丁目 須原屋茂兵衛

發兌書肆

三
 五
 九



